

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	美原保育園
所在地	東京都大田区大森東1-28-2

## 1 活動のテーマ

音・音色（楽器）

＜テーマの設定理由＞

- ・親子で遊ぼう会に向けて、講師を招き演奏の仕方を知ったり取り組みの姿勢を大切にしたりしていきながらも、楽しく鍵盤ハーモニカや様々な楽器を使っの演奏に取り組んでいけるようにする。

## 2 活動スケジュール

- 4月11日・講師、担任、園児での自己紹介や目標決めを行う・鍵盤ハーモニカの演奏を楽しむ
- 25日・昨年度に引き続き『メリーさんのひつじ』の演奏を楽しむ。『メリーさんのひつじ』の2番があることを知り、講師の演奏を聴いたり口で音階を歌ったりした後に、鍵盤ハーモニカで取り組む。
- 5月9日・『メリーさんのひつじ』2番の後半部分の楽譜を講師が用意し、以前同様にこどもたちが色塗りやマーキングを行う。こどもたちの意欲が持続するように、完成した楽譜にキラキラシールを貼る。
- 6月13日・1人ひとり順番に講師とマンツーマンで楽譜を見ながら1番から2番までをゆっくりと演奏し、指使いなどを確認行う。
- 7月25日・1番から2番までを演奏に取り組む。前回同様に難しい子には保育者が側につき一緒に鍵盤を押ししたり指で指し示したりしながら取り組む。楽しい気持ちで参加していけるように、徐々に速くしていく。
- 8月8日・鍵盤ハーモニカでの演奏がだんだんと出来るようになってきているか確認。タンバリンやカスタネット・鈴などを用意する。ピアノの音に合わせて裏拍を取ったり、伸ばす部分では音を鳴らし続けたりなどアクセントを加えるなど思い思いに楽しみながら参加できるようにする。慣れてきた後、鉄琴や木琴・トライアングル・大太鼓・小太鼓など様々な楽器を用意することをこどもたちに知らせる。
- 9月5日・打楽器等を経験する。
- 26日
- 10月3日・楽器決めを行う。
- 24日
- 11月14日・自分の決めた楽器を演奏することに自信を持ちながら練習に取り組み、親子で遊ぼう会への意欲を高める。
- 28日
- 12月12日・親子で遊ぼう会発表、練習してきたものを自信を持ち発表する。
- 15日・親子で遊ぼう会の振り返りと経験画を描く。
- 1月16日・新しい曲に挑戦する。
- 30日
- 2月13日・様々な楽器を用意して新しい曲の合奏を楽しむ。
- 3月13日・友だちと合奏し音が重なり合う喜びを感じながら参加する。

## 3 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

※活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具

- ・鍵盤ハーモニカケース
- ・楽譜
- ・シール
- ・色鉛筆
- ・大太鼓
- ・小太鼓
- ・タンバリン
- ・鈴
- ・カスタネット
- ・木琴
- ・鉄琴

## 4 探究活動の実践

### <活動の内容>

昨年度に引き続き鍵盤ハーモニカ教室では『メリーさんの羊』を題材に進めていった。昨年度はメリーさんの羊の1フレーズを披露したが、今年度は子どもたちと話し合い『メリーさんの羊』の楽譜の1曲全てを披露することにした。講師と共に話し合い1人ずつに手書きの楽譜を用意し、配布。子どもたちが楽しみながら取り組んでいけるように楽譜に色を塗ったり絵を描いたりする時間を設け、口でメロディーを歌っていった。スピードをゆっくりにしながらピアノの伴奏に併せて、鍵盤でも取り組んでいくと楽譜を見ながら演奏していけるようになり「これなら簡単にできそうだよ」と嬉しそうに取り組む姿があった。また、練習ばかりでは飽きてしまうため「このスピードは付いてくれるかな」とスピードをあげて楽しみながら演奏する機会も作ると「早すぎるよ」と楽しんでいった。難しい時には、保育者が傍に付き指で指し示しながら取り組むと意欲的に取り組めた。後半では大太鼓・小太鼓・木琴・鉄琴・タンバリン・カステネットなど様々な楽器を用意し合奏に移行していった。子どもたちが自分で取り組みたい楽器を選んでいけるように、練習の期間は順番に楽器に触れ演奏するようにしていくと「私鉄琴やりたいな」や「私は絶対に鍵盤頑張る」など何がやりたいかを考える姿が見られた。発表会の2週間前には楽器を決定し本番に向かって自分たちで決めた役割で取り組んでいった。また、子どもたちが遊びの時間にも自由に取り組んでいけるように保育室内に鍵盤ハーモニカや使用する楽器を設定しておいたことで、「先生やってもいい」と子どもたちが自ら進んで練習し、「〇〇ちゃん鍵盤やってくれない」など子ども同士誘い合い練習する姿が見られた。本番前日には園全体でお披露目を設けると緊張する姿があり、大太鼓小太鼓のリズムが崩れることもあったが、鍵盤ハーモニカを吹いている子たちがしっかりと進められていたため、打楽器担当もメロディーを聴き自分で立て直すことができた。「緊張したけど早くママたちに見てもらいたいな」と本番を待ち望む姿もあった。本番ではリズムも崩れることなく最後までしっかりと演奏することができ、保護者から拍手を送られると照れ笑いしていた。「素敵な演奏だったよ」と伝えると「緊張したけど、すごい頑張った」「楽しかった」と満面の笑みが見られた。

### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

※活動の様子が分かる写真を2枚以上を貼付してください。

(HPなどで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用してください。)



## 5 振り返り

### <振り返りによって得た先生の気づき>

子どもたちと一緒に楽曲を決めたことで、子どもたち自身が曲の練習に意欲的に取り組むことができた。また、楽譜などを用意し色を塗ったり絵を描いたりすると「鍵盤のシールと同じ色で色を塗ったよ」などと言いながら取り組み、自分の楽譜として大事に扱うようになった。楽器決めの際も、子どもたちが経験しながら選んでいけるように配慮したことで、「木琴がやりたいです」「大太鼓もやりたいけど、鍵盤も頑張りたい」と悩みながら自分でやりたい楽器を決めることができた。また「〇〇君の大鼓がすごく上手だと思った」と意見を出しあったりする関りも見られるようになった。楽器が決まった後は、楽しみながら本番に臨むことができた。楽器が決まり演奏を行うと、お互いがお互いの音をしっかりと聴いて演奏したり、目で合図しリズムを取り合うなど、保育者の援助なしで子どもたち自身がみんなで協力し進められるようになった。発表当日は、「緊張するね」「がんばろうね」「できるよ」など互いに励まし合い、一人ひとりが堂々と音を出して自信に満ちた表情で終えられ、互いの思いや合奏の楽しさを感じ「楽しかった」と成長を感じた。